

『鍼灸技術に関するQ&Aと要点、注意点』

『質問』

質問 01 「唾液分泌促進の為の「瘻門」への刺入深度は？」

10～15 ミリ位刺入し、しっかり雀啄しないと効果が出ない。
唾液が出てくるまで雀啄を続ける。

質問 02 「「内ネーブル」は硬い所取るのですか？」

いいえ、硬さは考えないで、「上下左右の際」に取ります

質問 03 「温灸ではだめでしょうか？」

温灸は温熱効果だけです、お灸は根本から体を変えていくものです。

質問 04 「自宅での直灸の灸痕が大きくなってしまいます、対処法は？」

初めから上手な人はいません、だんだん上手になると灸痕は小さくなってきます。

質問 05 「帯脈は何箇所もやっていいのでしょうか？」

2箇所位でいいと思います。

質問 06 「「吸って、はいて」は補瀉の為？痛みの為？」

この方の場合、体質的に過敏だから呼吸に合わせて刺鍼をしています。
「呼気時」に刺入すると痛くないです。

質問 07 「「百会、上星、額会」等のお灸のすえ方は？」

ヘアピン等を使い施灸。
「髪の毛が多少焼けるかもしれませんが」と前もって告げておくと良いでしょう。

質問 08 「「上四瀆」に打つ時、痛がる事が多いが、めげずにやったほうが良いですか？」

ここは痛いところですが、痛くないように、刺入を丁寧に。
痛がる人は、1～2ミリの雀啄でも良いです、不快感を与えないように。
敏感な人には、極端に言えば打ったフリだけでもよい、臨機応変に苦痛を与えない。

質問 09 「実技の時に「肝兪」の刺鍼を浅めに刺入、なぜですか？」

肝の反応が取れていたなので、刺激を減らす意味で浅く刺入。

質問 10 「雀啄はイメージを描きながらとは、どんなイメージですか？」

経絡に沿って気が廻っていくような、イメージを描きながら雀啄。

「帯脈」も体を廻っているイメージで。

漠然と機械的な雀啄をしてはだめです。

気の廻る速さは（素問では）1秒間に10～15cm、これを頭に入れながら雀啄。

質問 11 「「次膠」等の灸頭鍼の刺入深度はどの位ですか？」

10～15ミリ刺入します。

深すぎると灸頭が熱すぎるし、浅すぎると鍼が曲がって安定せず熱くなります。

質問 12 「灸頭鍼は、熱すぎてはだめですか？」

我慢させてはいけません。

火傷の恐れがあるので、終わるまで側にいるようにした方がよい。

質問 13 「「兪府」のみ鍼でかぶれる患者さんの場合、「S・U」で使う鍼の処置を全部、お灸に統一してやってもいいでしょうか？」

お灸でやっても構いませんよ。

「兪府」の代わりに「天牖」や「手三里」を試ってみてはどうでしょうか。

ただし、血圧が高い人には「天牖」はあまり使わない方がよい。

質問 14 「「足底裏横紋」等の自律神経調節の処置は、痛みをださないようにと言われますが、痛みの少ない刺鍼方法は？」

基本的に押し手で決まります。

押し手の拇指と示指を刺鍼部に押し当てて、少し指を広げるようにして、皮膚をピンと張るようにして切皮をすると、比較的痛みが少ないです。

治療上の注意点、要点

- 01) 「百会、上星、額会」等の取穴は、基本穴よりも圧痛やブヨブヨ感を診ながら取り、刺鍼は斜刺又横刺で雀啄。
- 02) 「照海」「太谿」等への刺鍼は、痛みが出やすいので、よく柔捻してから行う。
- 03) 「帯脈」は、1穴だけでなく、2穴、でも、硬いところがあればやってよい。硬いところに当たっていないと効果が無い、硬いのを解すように丁寧に雀啄。
- 04) 息を吐いたときに刺入したほうが、痛みが少ない。
- 05) 「内会陽」は横刺、直腸静脈網を広範囲で雀啄できる。直刺では狭い。
- 06) 「切皮瀉」は局所の痛みがなかなか取れないときに、最後にやる。
(ただし熱ある部は禁忌)
- 07) 横V字鍼は10～15ミリは刺入雀啄しないと効果が薄い。